

第2回 蒲郡北地区（中部中学校区）

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日時：令和元年8月4日（日）

午後1時30分～午後4時30分

会場：中部中学校

主催：蒲郡市

プログラム

開会	1：30
事務局から説明	1：35
・ワークショップの趣旨・目的 ・進め方とスケジュール ・前回ワークショップでのご意見 ・ご質問等への回答 ・蒲郡北地区の公共施設をとりまく現状 ・課題解決に向けた視点の整理 ・本日の検討内容	
（休憩）	2：20
グループ討議	2：30
・視点の整理 ・蒲郡北地区の課題 ・課題解決の方策	
発表	4：00
事務連絡	4：25
閉会	4：30

<目次>

- ・ワークショップの趣旨・目的 1
- ・進め方とスケジュール 2
- ・第1回ワークショップの結果概要（案） 7
- ・第1回ワークショップふりかえりシートご意見 13
- ・ご質問等への回答 17
- ・データで見る蒲郡北地区の現状 30
- ・課題解決に向けた視点の整理 43
- ・第1回ワークショップでいただいたご意見の整理 44
- ・本日の検討内容 47

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を参考に蒲郡北地区（中部中学校区）の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

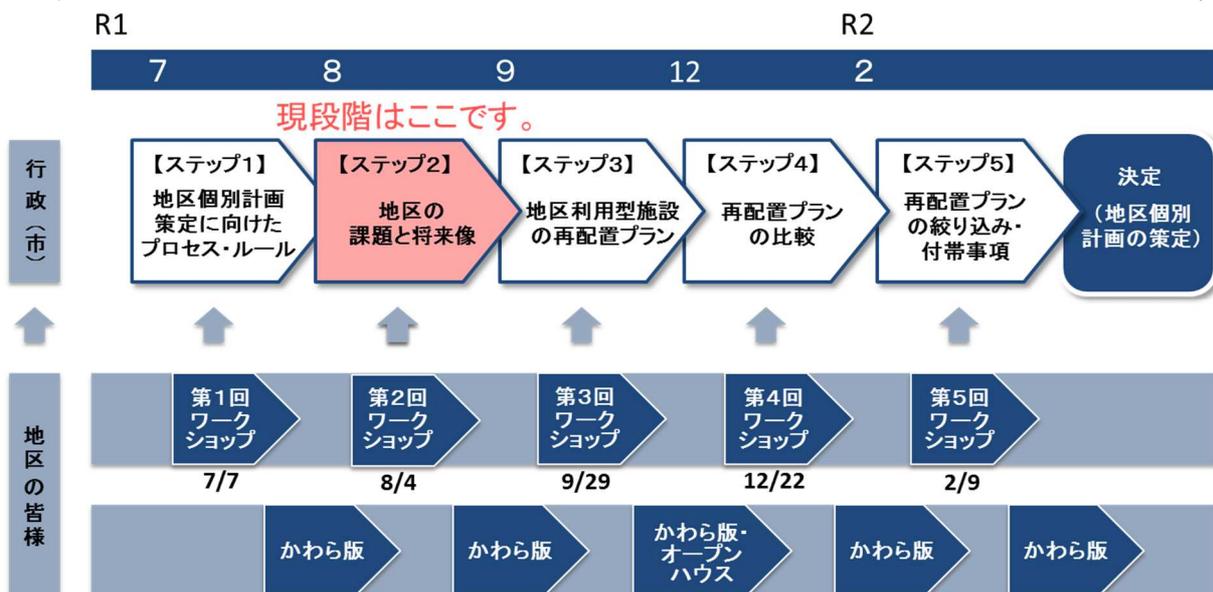
進め方とスケジュール

1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

- ステップ1** ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。
- ステップ2** 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。
- ステップ3** 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランを比較するための評価の視点について検討します。
- ステップ4** 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき評価し比較します。
- ステップ5** 再配置プランを絞り込むとともに、運営面での工夫等の付帯事項について整理します。

2 スケジュール（予定）



3 コミュニケーション

「地区個別計画」の策定に向けた検討では、地区の皆様と様々なコミュニケーションを進めていきます。

- ワークショップ
- オープンハウス（パネル展示型説明会）
- かわら版



【オープンハウス（パネル展示型説明会）】

地区の住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどの内容を広報します。

どなたでも立寄ることができ、住民の皆様からワークショップで検討されている内容についてのご意見をいただきます。

【かわら版】

地区内の各世帯に配布するチラシです。各回のワークショップ終了後、広報がまごおりとともに配布を行います。ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどをお知らせするとともに、ワークショップで検討されている内容についてのご意見を募集します。

4 ワークショップの概要

- ワークショップは、令和2年2月までに5回開催します。
- 原則として土曜日・日曜日または祝日に開催します。
- 会場は、原則として地区内の学校または公民館とします。
- 事務局は、蒲郡市総務部公共施設マネジメント課が担当します。
- ワークショップには、公募でご応募いただいた方が参加します。
- 同じ参加者に継続してご参加いただき、議論を深めていきます。
- ワークショップでは、参加者の皆様にグループ討議で自由にご議論いただきます。
- 一般の傍聴者や報道関係者が会議を傍聴することができます。

5 ワークショップの進め方

- グループ討議の運営では、円滑な議論のため、司会進行を第三者的立場のファシリテーターがお手伝いします。
- ワークショップでは、グループごとの議論を中心に進め、各回ワークショップの最後に各グループの議論の結果を発表します。
- グループ討議の議論は要点をまとめて記録します。これは個人の発言が特定されるものではありませんので、自由に前向きな議論をお願いします。
- 市に対する要望・陳情の場ではありません。
- ワークショップの様子をホームページ等で公表するなど情報発信を行います。会場内で録音・撮影する場合がありますことをご了承ください。

6 ワークショップの成果

- ワークショップでのご意見を踏まえて複数の再配置プランを評価・比較し整理します。
- 整理した内容は、市が「地区個別計画」を策定する際の基礎情報として活用します。

7 ファシリテーターのご紹介

～こんにちは。皆さんの議論を円滑に進めるために、第三者的立場から議事進行やとりまとめをお手伝いします。どうぞよろしくお願いいたします。～

なばた めぐみ
名畑 恵

NPO 法人 まちの縁側育くみ隊

ふじもり みきひと
藤森 幹人

株式会社 対話計画

かつらやま としあき
葛山 稔晃

株式会社 対話計画

いなば ひさゆき
稲葉 久之

フリーランス・ファシリテーター

みつや かつし
三矢 勝司

NPO 法人 岡崎まち育てセンター・りた

- 話し合いに積極的に参加しましょう
- 自分の考えを率直に述べましょう
- 前向きな思考で発言しましょう
- 評論家ではなく当事者として関わりましょう
- 他の参加者の意見に耳を傾けましょう
- 気持ちよく運営できるよう協力しましょう
- 議論や運営に貢献する姿勢を讃えましょう

(必要があれば追加しましょう)

第1回ワークショップの結果概要（案）

1 計画検討やワークショップの進め方について

1) 蒲郡市の現状と課題

- 将来の維持更新費が足りなくなるという根拠について、疑問が残る。
- 施設を縮減するよりも今ある施設を長く利用したほうが、コストを抑えられると思う。
- 人口減少が進む見通しに合わせて公共施設も縮小を考えているが、企業誘致や宅地造成などの人口を増やすための施策も考えるべきだ。
- 余裕を持たせた計画も必要であるが、運営面や維持管理費用など総合的に考えて検討すべきである。
- 人口減少に対応して将来の公共施設の縮減や合併はある程度仕方がないと考える。今ならまだ財政的な余裕もあり、検討を始めるには好機だと考える。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

2) 地区個別計画策定に向けた検討の進め方

- 公共施設の建て替え時期の目安を示してほしい。
- 地区内にある図書館や市民体育センター等の全市利用型施設についても、一緒に検討するべきではないか。
- 小・中学校については中学校区の枠にとらわれずに、全市的な方針・視点で配置案を考えた方がよいのではないか。
- 中央小学校区は蒲郡公民館を利用しているため、蒲郡南地区を交えて公民館の再配置について話し合いをする必要がある。
- 3つの小学校区毎に地域の実情が異なるため、各学校区の問題や課題等に対する認識に温度差が出ないように、お互いの実情を知ることが必要である。
- ワークショップやオープンハウスだけでなく、自治会・PTA等の地域団体や興味を持っていない人の意見をどう吸い上げ、計画に活かすかの工夫が必要である。

3) ワークショップの進め方

- グループ討議のファシリテーターは外部に依頼するのではなく、市の職員が担当すれば運営コストを削減できるのではないか。
- グループワークで個々が意見を出す時に、本人が要点をまとめて付箋紙に書くことは難しい。グループファシリテーターが書き起こす方がよいのではないか。

2 地区のまちづくりや公共施設について

1) 地区のまちづくりの方向性

- 高齢化が進んでいる地区もある。日常的に交流ができるよう、公共施設やコミュニティバスの整備、ソフト面での対応などで、高齢者が住みよいまちにしたい。
- 中央小学校と南部小学校、中央小学校と西部小学校では学校区と自治会との不整合が起きているため、不整合は解消される方が良い。
- 西部小学区は市街化調整区域が多く新しい家が建ちにくい。将来的に、学校区内で開発できるようにならないか。
- 現在の学校や保育園の維持にこだわる必要はない。公共施設の再配置と共に行政区も適宜変化していく必要がある。

2) 公共施設の現状や今後について気になること

■ 公共施設全般

- 施設の利用現状や将来の人口動向を把握した上で、公共施設の再配置の必要性について考える必要がある。
- 高齢者や子どもは徒歩での移動が多いため、こうした人が利用する施設は徒歩圏内に配置を検討すべきである。
- 多機能化、集約化することによって、子育て環境の向上や、災害等の非常時への対応もとりやすくなる。
- 部活動がなくなるので、子どもと市民団体が共に活動する場所を検討できると良い。
- 避難施設など防災面も考慮した上で、公共施設の配置を計画するべきである。
- 中央小学校は標高が低く、避難場所としては疑問がある。
- 津波や洪水の危険性について、年配の人は理解をしているが後世に伝えられていない。
- 施設が老朽化しており、対応が必要である。
- 公共施設が有効活用されていない。民間に有料で貸し出したらどうか。
- 今ある施設を有効に活用し、余った施設は廃止すべきである。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ 小学校・中学校

- 学校施設の利用実態を正しく把握したうえで、施設の有効利用や廃止の可能性を検討するべきである。
- 学校は地域活動などでもっとオープンにされるべきだと思う。
- 通学路の安全を考慮した計画にするべきである。
- 学校の統合は通学距離が長くなり、安全面において心配がある。
- 児童数や築年数を考慮すると、小学校を3校から2校へ再編するのが妥当だ。学校跡地の有効活用もできる。
- 西部小学校区は人口が少なく、住民の負担も大きい。再編すれば負担の平準化や効率化を図ることができる。
- 小規模校では人間関係に苦勞するといったデメリットと、自己表現力が養われるといったメリットの両方を聞くので、これらを考慮する必要がある。
- 小学生の通学手段を確保したうえで、小中一貫校を導入して中部中学校と小学校3校を一緒にする案も考えてはどうか。
- 学校を減らしてでも、児童の多国籍化への対応や、障がいを持った子への特別支援など、子どもたちに手厚い支援をしたい。

■ 保育園

- 保育園は必ずしも最寄りの園ではなく、車で送迎している実態がある。統合によって効率化し、延長保育や未満児保育などのサービスを向上してほしい。
- 西部保育園は西部小学校と一体化したほうが便利である。
- 1クラス当たりの適正な園児数は15～20人ではないか。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ 公民館

- 公民館は高齢者の利用が多いが、若い人が使いやすい環境づくりや利用のPRを行い、利用促進を図りたい。
- 多機能化や複合化によって、利便性が向上し、多世代で交流できる場となれば、地域の活性化にもつながる。
- 昔は子どもが公民館で遊んでいたが、最近は見かけない。公民館の必要性を考えるうえで、子どもの遊び場の現状も知りたい。
- 中央小学校区は隣の学校区にある蒲郡公民館を利用している。体育センターに公民館を併設してほしい。

■ 児童館・児童クラブ

- 西部小学校・北部小学校の児童クラブはちゅうぶ児童館で実施されているが、学校内でできないのか。児童館への移動は大変で、交通事故も心配である。

3 その他

- 自治会の役員を引き受けたがらない人が多い。自治会活動への参加を促していく必要がある。
- バイパスが開通したことで地域が分断され、自治会運営に混乱が生じている。
- 地元が管理する地域の集会場を多機能化して活用できるようにするべきである。

第1回ワークショップ ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- ファシリテーターの方が優秀だったため、非常に話し合いが盛り上がった。
- メンバーの方々も非常に優秀だった。
→自分の意見を言うだけでなく、他の人の意見もしっかり聞く。
- フレンドリーな雰囲気の中で自分の思いを伝えることができ、よかったです。
- 他地域の状況を知ることができました。
- 活発で良かった。
- 普段、実の所、地元の人はどう思ってるのか聞ける、伝える場として良かった。
- 各年代、各地域の人がいたため、自分の知らないことを知る場にもなったことが良かった。
- 自分では想像できなかった意見を聞くことができ、とても良い機会となりました。新しい事を進める事は、とても大変な事だと実感しました。
- 総体的にファシリテーターの進め方が上手であった。市の職員では、ここ迄、話題をつめる事はできないと思う。
- 色々な意見を聞いて良かった。
- いろんな地域の方と出会ったこと。
- 全員の意見が出て良かったと思います。
- 様々な意見が出たことはよかった。自身気が付かない意見は面白かった。
- 他地区の問題点がわかって良かった。
- 他の人の考え方も目線が違うので勉強になる。
- 身近な施設について考えることができた。(ともすれば行政の提案に可否を示すだけになる。)

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 色々な地域の方の意見がきけてよかった。
- いろいろな地区、立場の方々からお話がきけてよかった。
- いろいろな視点があり、思いがわかった。
- 思ったより話しやすかった。
- いろいろな人の話が聞けた事。
- 幅広い世代の人たちの考えを共有できて面白かったです。
- 中部校区の事が良くわかって来ました。
- 若い方の話が聞けて大変よかった。
- ざっくばらんな意見を出しあえて、良かったと思います。
- 全市利用型の施設が多いので、中学校区のみで再編するのではなく、市内全体で考える必要があるという考え方は大切だと感じました。
- 色々な地区、年齢の方々と話し合いが出来て良かったと思います。
- 蒲郡を良い方向へ…と考えている方ばかりで参加し良かったです。
- 参加者が様々な年代がいて、色々な面での意見が聞けた。
- 多様な視点の議論ができたことはよかった。ただ、地域限定の議論には限界があり、今後の課題。
- 色んな人の意見がきけてよかった。おもしろかった。
- 色々な話が出ていて良かった。
- 参加者の意見を聞くことで、地域の課題が少し分かる気がしました。
- この会合に参加に当り、若い方が良いと思いましたが、ビックリするほど若い方のお話があり、良かったです。
- 皆さんの意見を聞くことで、今まで気づかなかった点を知ることができた。

2 内容について言い足りなかったこと

- 全市利用型のことについて。
- 博物館、ナビテラスはいらぬ。
- 小学校の編成が必要。西部小をなんとかしていったら良いと思う。
- 市の体育館。
- 次回たくさん話しましょう。
- 逆に施設のことだけになってしまった。他のインフラも含めた総合的な視点で考えたかった。
- 最後の最後に人口減ありきの話し合いではなく、人口増や、ゆとりをもった公共施設のあり方を考える必要があるという意見が出ましたが、まさにそうだと思います。人口が少ない地域に住んでいるからこそ、切にねがいます。
- まだ、勉強不足なので、もっと勉強してきます。
- 言いたい事は言ったので良かったと思います。
- 具体的な意見が多かったが、もう少し大幅な意見を聞きたかった。
- 小中一貫校（全市）がなぜ必要かについての説明不足。
- もっとだしてもらった意見を深くききたかった。
- 参加者の意識が高いので、全体の時間が短く感じられた。言いたいことはそれなりに言えました。
- 公共施設の維持更新費用 1,801 億の根拠。

3 今日のワークショップの進め方について

- ファシリテーターを市が “公平性” 職員を専門育てるのにも経費がかかると思う。
- それぞれの人が意見を言うことができたので良かった。
- 今日の進め方でとてもよかったです。
- 目的に合った意見が出しやすくなるように共通理解が必要か。
- 市の方針も示して欲しい。
- 引っぱって、まとめてくれる方がいるので、スムーズに進んで良かった。
- OK
- ファシリテーターさんがうまくまとめてくれていた。
- みなさん、他者の意見をあたたかくきいていた。
- よかったです。
- ファシリテーターは必要だと思います。
- ファシリテーターさんにメモを書いて欲しいです。
- 今日のような進め方で良いと思います。
- 大変よかったです。
- 話しやすかったです。
- 学区ごとの問題について、あらかじめ焦点を決めないと自分たちのことでいっぱいになるのでは？
- 活発に意見が出ていたため、今後もこの進め方で問題ないと思います。
- グループの稲葉さんがリードして下さり、スムーズに話し合いが出来ました。
- 説明が長すぎる。
- 経費削減との意見がありましたが、やはりプロの進め方は上手いと思った。
- はじめはよくわからなかったけれど、だんだん話にのれました。
- 紙に書いて意見を出すのは出しやすいです。

ご質問等への回答

1 資料について

- 公共施設の建て替え時期の目安を示してほしい。

【建て替え時期について】

一般的に、高度経済成長期に建てられた鉄筋コンクリート造の建物の寿命は60年程度とされております。長寿命化工事を実施すれば、より長期間にわたり建物を使用することができますが、躯体や設備などの大規模な改修工事が必要となります。したがって、築50年以上経過している建物につきましては、近いうちに建替えや長寿命化工事といった対策が必要になってまいります。

なお、蒲郡北地区の地区利用型施設の主要な建物の中で、今年時点で築50年以上経過しているものは以下のとおりです。

- ・ 蒲郡北部小学校 普通教室棟 昭和27年建築（築67年）
特別教室棟 昭和40年建築（築54年）
- ・ 蒲郡西部小学校 普通教室棟 昭和27年建築（築67年）
管理教室棟 昭和40年建築（築54年）
- ・ 中央小学校 普通教室棟 昭和44年建築（築50年）
管理教室棟 昭和44年建築（築50年）
特別教室棟 昭和44年建築（築50年）

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 高齢化が進んでいる地区もある。日常的に交流ができるよう、公共施設やコミュニティバスの整備、ソフト面での対応などで、高齢者が住みよいまちにしたい。

【コミュニティバスについて】（コミュニティバスを所管する交通防犯課の回答）

現在、蒲郡市では交通空白地解消を目指してコミュニティバスの導入を進めています。導入を行う際には、地区の実情を十分に反映した計画とするため、「地区公共交通協議会」を立ち上げ、地区の皆様で運行計画案をご協議、ご検討いただいております。

中部中学校区のうち、西部地区においては令和2年1月からの運行開始を目指し計画を進めております。運行ルートについては、以下のとおり計画されています。北部地区においては、今のところ前提となる「地区公共交通協議会」が立ち上がっていない状況です。

なお、令和元年10月から運行開始予定の東部地区のコミュニティバスが、水竹町地内などの国道247号を運行する予定となっています。

（西部地区コミュニティバスルート案）

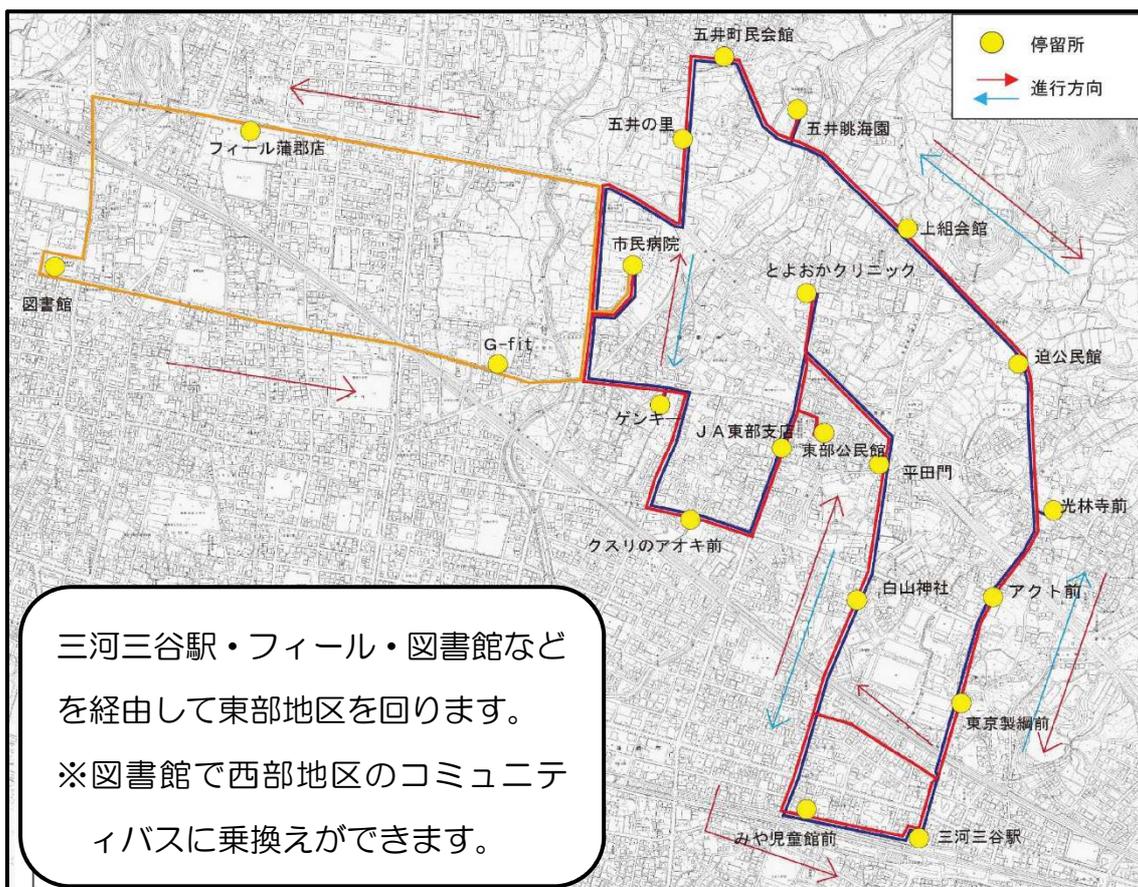


蒲郡駅・市役所・図書館などを経由して西部地区を回ります。

※図書館で東部地区のコミュニティバスに乗換え（市民病院方面）ができます。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

(東部地区コミュニティバスルート案)



- 施設の利用状況や将来の人口を把握した上で、公共施設の必要性について考える必要がある。

【検討の参考資料について】

今回、「データでみる蒲郡北地区の現状」(p.30~42)をご用意しました。前回お示しした資料等で特に重要と思われる情報を中心に整理したものですので、ご確認ください。

- 中央小学校は標高が低く、避難場所としては疑問がある。

【中央小学校の状況について】（防災課の回答）

避難所を考える際には、災害ごとの被害想定を確認することが重要です。

地震の場合、土地の高低が関係してくることとして津波があげられます。第1回ワークショップでお配りをした「蒲郡北地区（中部中学校区）まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ資料集」のp.2 に津波の浸水区域をお示ししておりますが、中央小学校まで津波が浸水する想定はありません。

水害に関しては、24 時間で総雨量 272mmの降雨があった場合、落合川の浸水予想図によると、中央小学校には0.5m未満の浸水予想があります。

高潮に関しては、愛知県発表の高潮浸水想定によると、市民体育センター付近までは最大 1mの浸水想定が発表されていますが、中央小学校には高潮浸水想定は及んでいません。

土砂災害に関しては、中央小学校に土砂災害警戒区域の指定はありません。

同じ「資料集」のp.2～4 に津波・高潮・洪水で浸水が想定される区域をお示ししていますので、ご確認ください。なお、学校及び周辺の避難所の海拔は中央小学校が6.3m、市民体育センター武道館が3.8m、中部保育園が7.0mとなっています。

参考までに、中央小学校区の避難施設については、以下のとおりです。

1 指定緊急避難場所

災害が発生し、又は発生する恐れがある時にその危険から一時的に逃れるための場所で、場所ごとに避難の対象とする災害が指定されています。

- ・中央小学校校庭（避難対象災害：高潮、地震、津波）
- ・中ノ坊公園（避難対象災害：地震）
- ・神倉公園（避難対象災害：地震）
- ・御幸公園（避難対象災害：地震）
- ・旭公園（避難対象災害：地震）
- ・蒲形公園（避難対象災害：地震）
- ・大坪公園（避難対象災害：地震）
- ・藪田公園（避難対象災害：地震）

2 指定避難所

災害から避難した住民を、災害の危険性がなくなるまでの間滞在させ、また災害により家に戻れなくなってしまった住民を一時的に滞在させるための施設です。(最大収容人員は1人当たり2㎡で計算)

- ・中央小学校体育館 (最大収容人数370名)
- ・中部保育園遊戯室 (最大収容人数61名)
- ・市民体育センター武道館 (最大収容人数800名)

3 地域避難場所：学校区内に指定なし。近隣の施設を掲載。

原則として台風等風水害災害の際、少人数の方が避難する場合に開設される避難場所です。(最大収容人員は1人当たり2㎡で計算)

- ・蒲郡公民館 (最大収容人員132名)
- ・西部公民館 (最大収容人員74名)
- ・塩津公民館 (最大収容人員117名)

4 届出避難所

市民の方が自主的に開設し、運営する避難所で、蒲郡市届出避難所登録要綱に基づき登録された地域の集会施設等が該当します。(最大収容人員は1人当たり2㎡で計算)

- ・蒲形公民館 (最大収容人数82名)
- ・蒲形集会場 (最大収容人員32名)
- ・吉光会館 (最大収容人員54名)

5 福祉避難所

高齢者や障がいをもった方など、災害時に特別な配慮が必要になる方のための避難所です。(最大収容人員は施設の対応可能人数)

- ・老人保健施設みらいあ (最大収容人員30名)

- 公共施設が有効利用されていない。民間に有料で貸し出したらどうか。

【公共施設の利用状況について】（体育課・生涯学習課の回答）

学校施設につきましては、学校教育活動で利用しているときと利用していないときがあり、利用していない休日などについては、一定の利用条件の中で利用していただいています。

学校体育施設の開放状況につきましては、「蒲郡北地区（中部中学校区）まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ資料集」のp.17～18に掲載していますので、ご確認ください。利用できるのは、蒲郡市内に在住又は在勤・在学する方で10人以上の団体を構成し、かつ、当該団体に成人の責任者が含まれ、教育委員会に登録された団体に限ります。

また、一部の学校では家庭科室・図工室などを生涯学習活動でも利用することができます。5人以上の団体で、学校区内に住んでいる成人の責任者が含まれ、教育委員会に登録された団体に限ります。

また、公民館の利用状況については、今回ご用意した、「データでみる蒲郡北地区の現状」の（p.36～37）に再掲しています。

- 空き教室など学校施設の利用実態を正しく把握したうえで、施設の有効利用や廃止の可能性を検討するべきである。

【教室の利用状況について】

市内の学校の学級数は、現在と同じ20校となった昭和53年度は370学級であったものが、令和元年度は284学級（86学級減）となっています。1学級あたりの児童・生徒数の変化や、特別支援学級の対象の変更により、児童・生徒数の減少と比べると、学級数の減少は緩やかになっています。

地区内の学校で、空き教室を児童クラブ室など別の用途で活用している部屋については、以下のとおりです。

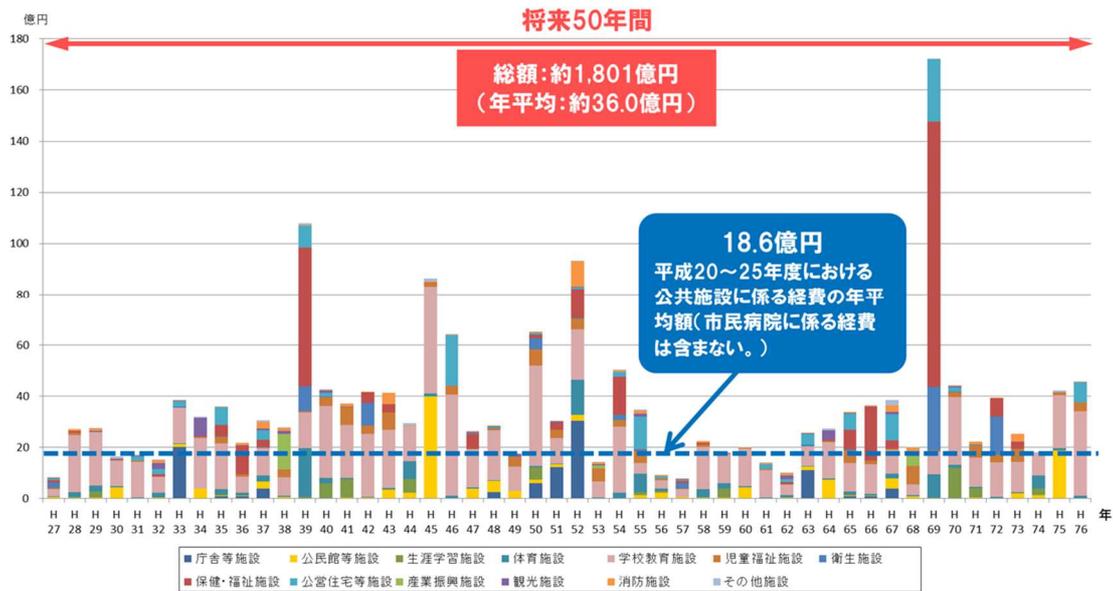
- ・北部小学校：児童クラブ1
- ・中央小学校：多目的室2、児童クラブ1
- ・中部中学校：憩いの部屋3・学習室1・その他1

2

本市の公共施設マネジメントの取り組みについて

- 将来の維持更新費が足りなくなるとい根拠について、疑問が残る。
- 施設を縮減するよりも今ある施設を長く利用したほうが、コストを抑えられると思う。

【維持更新費用の考え方について】



前回お示した「公共施設の維持更新にかかる将来費用の推計」(上のグラフ)では、各施設を現状の規模のまま維持することを前提に、建築後 15 年で軽微な修繕、30 年で大規模改修、45 年で修繕、60 年で建替えを実施すると想定して費用を積み上げており、50 年間で 1,801 億円（1 年あたり約 36 億円）が必要と試算されています。

一方、今まで使ってきた公共施設に関する経費は、普通建設事業費（公共施設やインフラの建設のために使われた経費）のうち、道路などインフラに使われた経費と用地買収に使われた経費を除いた額で算出しており、年平均 18.6 億円を支出しています。

なお、市民病院に関する経費につきましては、統計処理上、必要見込額には含まれていますが、実支出額には含まれていません。次回の計画更新の際には市民病院の経費についても統一した基準で計上し、より対比しやすくする予定です。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

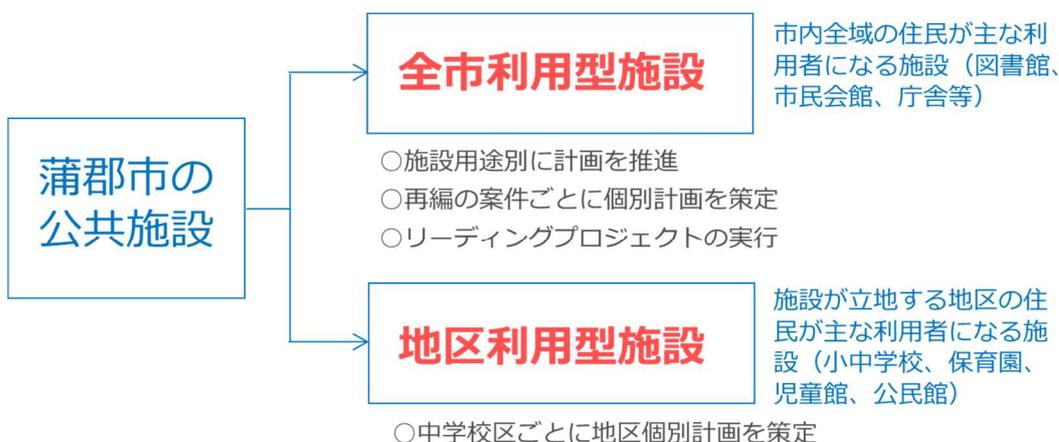
【長寿命化について】

建物の長寿命化は、短期的に見れば、少ない金額（改修費用）をかけることで大きい金額（建替え費用）を抑えることができますが、長期的に見れば、いずれは建替えが必要となり、さらに長寿命化のための改修費用が必要となります。長寿命化は、費用の縮減のためではなく、お金が必要な時期を平準化するための手段のひとつと捉えています。

今後、建物の更新時期が一斉に訪れることが想定されており、年ごとの更新費用を平準化する必要もあるため、施設の状態に応じ、魅力ある施設への更新の手法と、長寿命化の手法を使い、事業を進めていきます。

- 地区内にある図書館や市民体育センター等の全市利用型施設についても、一緒に検討するべきではないか。

【全市利用型施設について】



蒲郡市公共施設マネジメント実施計画では、市内全域の住民が主な利用者となる「全市利用型施設」と、施設が立地する地区の住民が主な利用者となる「地区利用型施設」に分けて、適正配置に向けた検討を行うこととしています。

このうち「全市利用型施設」については、市内全域の住民が利用する施設であるため、全市的な視点で方向性を出すべきだと考えています。そのため、今回のワークショップにおいては検討の対象とはしませんが、ご意見につきましては全市利用型施設のあり方を考える参考にさせていただきます。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

【体育センター・図書館について】（施設を所管する体育課・庶務課の回答）

体育センター（体育館）は、平成30年度に建替えから現体育館の耐震・長寿命化改修へ方針を変更しました。今後、改修方針に基づき工事を行い、当面は使用していきます。また、武道館も老朽化が進み耐震性に劣るため、体育館の改修工事に目処がつけば武道館の耐震・長寿命化改修に取り掛かりたいと考えています。

図書館は、機能移転や他施設との複合化も含めた検討を始めているところであり、検討結果に基づき、今後整備を実施したいと考えています。

- 中央小学校区は蒲郡公民館を利用しているため、蒲郡南地区を交えて公民館の再配置について話し合いをする必要がある。

【隣接地区の施設について】

このワークショップでは、検討の対象を蒲郡北地区（中部中学校区）にある地区利用型施設としており、ご参加いただいている皆様には、地区内の施設についての将来の施設配置を検討していただいています。

なお、昨年度実施した蒲郡南地区（蒲郡中学校区）のワークショップにおいて、蒲郡公民館については、建物が新しいため、老朽化等により活用が難しくなった段階で南部小学校の敷地に機能を集合する想定といたしました。しかしながら、蒲郡北地区（中部中学校区）の住民の皆様も蒲郡公民館を利用しているため、蒲郡北地区の住民の皆様のご意見もお聴きした上で、蒲郡公民館の将来の配置等について検討していくこととしています。

ただし、蒲郡公民館は建物が新しく今後長期にわたり現地で維持することが適当であるため、地区個別計画に移転等を盛り込む予定はありません。

- 西部小学校区は市街化調整区域が多く新しい家が建ちにくい。将来的に、学校区内で開発できるようにならないか。

【西部小学校区の開発について】（都市計画課の回答）

都市計画区域には、市街化を促進する市街化区域と、市街化を抑制する市街化調整区域があります。市街化調整区域は一定の要件を満たすもの以外、原則建物は建てられないため、開発を行うには市街化区域への編入が現実的な方法となります。

しかしながら、市街化区域を拡大するには、人口が増加していることが事実上の要件となっています。本市においては人口が減少していることから、現状ではこれ以上市街化区域を広げることは難しいと言えます。

- 小学生の通学手段を確保したうえで、小中一貫校を導入して中部中学校と小学校3校を一緒にする案も考えてはどうか。

【小中一貫校について】（学校教育課の回答）

学校は地域づくりの核であり、地域の特色・学校の規模を生かして教育を進めるためには、その地域に合った学校をそれぞれ検討すべきと考えています。小中一貫校を含めた「学校のあり方」は今後の検討課題であると考えており、教育委員会として、まだ方向性を示すには至っていない状況です。

3 今回の検討や今後の進め方について

- ワークショップやオープンハウスだけでなく、自治会・PTA等の地域団体や興味を持っていない人の意見をどう吸い上げ、計画に活かすかの工夫が必要である。

【コミュニケーション方法について】

幅広い世代、様々な立場の方々のご意見をいただけるよう、ワークショップにご参加いただいている方以外には、かわら版の発行やオープンハウス（パネル展示型説明会）を開催し、検討状況等をお知らせするとともに、意見募集を行ってまいります。

また、地区個別計画の案ができ上がった段階で、計画案について周知を行うとともにパブリックコメント（意見の募集）を実施し、幅広く意見を吸い上げてまいります。

- グループ討議のファシリテーターは外部に依頼するのではなく、市の職員が担当すれば運営コストを削減できるのではないか。

【ワークショップの運営方法について】

このワークショップでは、ご参加いただいている方から率直なご意見をいただきたいと考えています。そのため、グループ討議の司会・進行の経験が豊富で第三者的な立場であるファシリテーターに依頼をして、グループ内の進行や意見のとりまとめをお願いしております。

- 通学路の安全を考慮した計画にするべきである。

〔 バイパス開通による西部小学校区への影響を懸念する声があったこと
から、西部小学校区の安全対策についての回答を用意いたしました。 〕

【通学路の安全対策について】（道路の維持管理を行う土木港湾課の回答）

国道23号バイパスの開通により、西部小学校区の生活道路の交通量が増えており、特に大型車が増えたように感じています。そこで、交通安全対策として以下のような整備を実施しました。

- ・西部小学校周辺の生活道路へ大型車が進入しないよう、県道芦谷蒲郡線（竹谷神社から柏原町へ北上する道路）への迂回看板を設置しました。
- ・西部小学校南にあるT字の交差点部分に注意喚起のため、エスコートマーク（車線に沿った破線）等の区画線を設置しました。
- ・西部小学校を北に上がった交差点部分にエスコートマーク等の区画線と東側の路線にグリーンベルトを設置しました。
- ・矢倉場交差点南側約500mの区間において、大型車の通行が増えたことによる舗装のわだちや亀裂が生じたため、舗装の改良を行いました。

この他に、大型車が増えたことによる道路の破損について、その都度補修しています。

- （保育園の）1クラス当たりの適正な園児数は15～20人ではないか。

【保育園のクラス規模について】（保育園を所管する子育て支援課の回答）

保育園の1クラスの人数につきましては、国の基準に基づいた運用となっています。具体的には、0歳児3人、1・2歳児6人、3歳児20人、4・5歳児30人にそれぞれ保育士1人以上を配置することとされています。

例えば、5歳児が28人の場合は、保育士の配置は1人となりますので28人で1クラス、また、5歳児が40人の場合、保育士の配置が2人必要となりますので、各20人の2クラスとなります。

原則、この基準に基づきクラス編成を行っていますが、必要に応じて補助の保育士を配置するなど、柔軟に対応をしています。

- 昔は子どもが公民館で遊んでいたが、最近は見かけない。公民館の必要性を考えるうえで、子どもの遊び場の現状も知りたい。

【子どもの遊び場について】

時代とともに子どもの遊びが多様化しており、公民館がそういった多様化するニーズに合わなくなってきたことが考えられます。

なお、変化する子どもの遊びのニーズに対応するため、中学校区に1箇所ずつ児童館を設置しており、中部中学校区についても平成16年にちゅうぶ児童館を設置いたしました。多くの方にお越しいただき、賑わっています。

また、共働き世帯や単身世帯の増加に伴い、放課後や土曜日、夏休み期間中などの子どもの居場所のニーズも高まっており、これに対応するため児童クラブの設置を進めております。放課後等における、新たな子どもの居場所のひとつとなっています。

- 西部小学校・北部小学校の児童クラブはちゅうぶ児童館で実施されているが、学校内でできないのか。児童館への移動は大変で、交通事故も心配である。

【児童クラブについて】（児童クラブを所管する庶務課の回答）

児童クラブの設置場所については、移動の際に交通事故の心配がないところで実施したいと考えておりますが、西部小学校につきましては、もともと教室数が少なく空き教室がないため、全学年ちゅうぶ児童館で実施しています。北部小学校につきましては、空き教室1部屋を活用して1～2年生は学校内で実施していますが、3～6年生は他に学校内に場所がないため、ちゅうぶ児童館で実施しています。

なお、低学年の児童については特に危険であることから、現在、西部小学校の1～2年生につきましては、児童クラブの職員が学校まで迎えに行く対応をしています。

データで見る蒲郡北地区の現状

1 地区の特色

- 蒲郡北地区は市中北部に位置し、隣接する蒲郡南地区（蒲郡中学校区）にまたがる蒲郡町部と蒲郡東西北部と呼ばれる2つの行政区からなる地域です。地区南部には、市役所本庁舎や市民体育センター、市民会館など市の大型施設が配置されています。地区北東部に位置する水竹町では、区画整理事業が行われており、宅地整備が進んでいます。また、北西部には森林や農地が広がっており、蒲郡市の農業の中核を担う地域でもあります。

2 地区間公共施設保有量比較

- 蒲郡北地区の地区利用型施設の人口1人あたり延べ床面積は、2.19㎡/人で、市全体（2.00㎡/人）と比較して、9.5%多い状況です。

地区	人口(H27)	施設区分	公共施設 保有面積 (㎡)	人口1人 あたり面積 (㎡/人)
大塚	6,553	全市利用	16,848	2.57
		地区利用	14,820	2.26
		総計	31,668	4.83
三谷	13,199	全市利用	7,201	0.55
		地区利用	25,431	1.93
		総計	32,632	2.47
蒲郡北	12,392	全市利用	50,765	4.10
		地区利用	27,144	2.19
		総計	77,909	6.29
蒲郡南	16,760	全市利用	59,613	3.56
		地区利用	35,617	2.13
		総計	95,230	5.68
塩津	11,179	全市利用	53,670	4.80
		地区利用	17,589	1.57
		総計	71,259	6.37
形原	15,331	全市利用	9,560	0.62
		地区利用	25,632	1.67
		総計	35,192	2.30
西浦	5,686	全市利用	12,943	2.28
		地区利用	15,593	2.74
		総計	28,535	5.02
市全体	81,100	全市利用	210,600	2.60
		地区利用	161,826	2.00
		総計	372,426	4.59

※ 人口は、国勢調査データに基づき算出

※ 分析対象は、公共施設白書における対象施設

※ 地区利用型施設には、小規模施設（公園便所等）を含む

3 人口

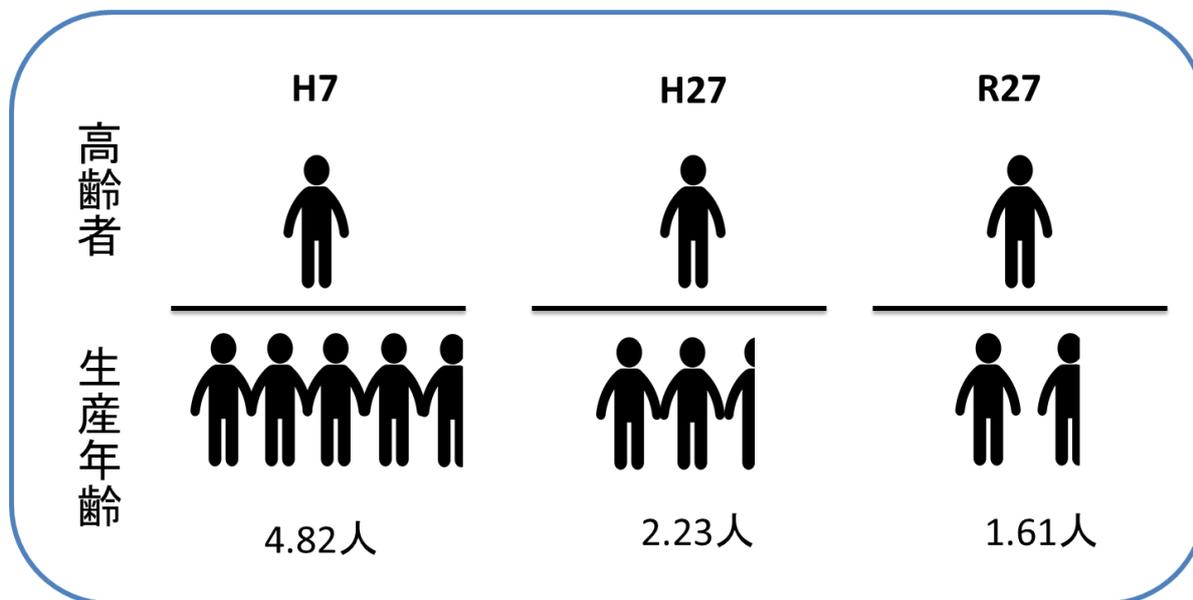
- ・ 国勢調査のデータによると、平成7年から平成27年までの20年間で、地区内の人口は187人減少してはいますが、大きな変化は見られません。しかし、世代別に見ると、年少人口440人減（-20.9%）、生産年齢人口1,196人減（-13.8%）、高齢者人口1,413人増（+78.6%）と、高齢者が急激に増加していることが分かります。

蒲郡北地区の人口推移

人口区分		平成7年	平成17年	平成27年	令和7年	令和17年	令和27年
高齢者人口 (65歳以上)	目標値				3,392人	3,446人	3,535人
	実績値	1,855人	2,590人	3,324人			
生産年齢人口 (15~64歳)	目標値				7,153人	6,443人	5,684人
	実績値	8,710人	8,189人	7,401人			
年少人口 (14歳以下)	目標値				1,413人	1,402人	1,410人
	実績値	2,075人	1,687人	1,667人			
総計	目標値				11,958人	11,291人	10,629人
	実績値	12,640人	12,466人	12,392人			

※ 目標値は、「蒲郡市まち・ひと・しごと人口ビジョン」における目標人口の推計条件を蒲郡北地区に適用して算出

※ 実績値は、国勢調査データに基づき算出



- ・ 地区内の高齢者（65歳以上）1人に対する生産年齢人口（15歳～64歳）の人数は、平成7年当時は4.82人だったものが平成27年には、2.23人にまで減少しています。また、令和27年には1.61人にまで減少する見込みです。

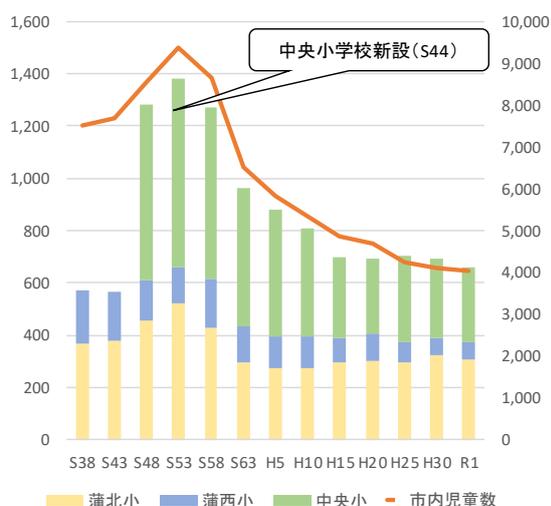
4 各公共施設の利用状況（資料集から抜粋）

(1) 小学校・中学校の児童・生徒数の推移（資料集 p.15）

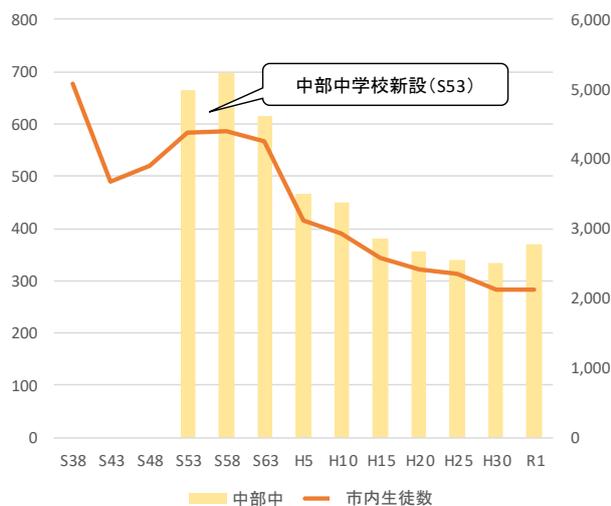
(人)

	S38	S43	S48	S53	S58	S63	H5	H10	H15	H20	H25	H30	R1	S53を基準としたR1の割合
1 蒲南小	1,950	1,954	1,600	1,064	856	591	522	382	367	365	333	332	342	32.1%
2 蒲東小	413	421	499	445	485	375	352	385	345	339	294	284	297	66.7%
3 蒲北小	366	379	455	523	429	293	273	272	298	301	298	323	304	58.1%
4 蒲西小	206	185	156	136	184	140	124	123	92	105	74	67	71	52.2%
5 三谷小	1,393	1,449	810	749	633	469	394	357	372	330	262	215	215	28.7%
6 塩津小	551	581	809	1,066	1,038	808	715	685	654	579	518	527	512	48.0%
7 大塚小	396	402	418	527	590	488	394	408	356	385	308	297	288	54.6%
8 形原小	1,461	1,075	952	955	863	676	647	569	488	500	391	353	355	37.2%
9 西浦小	770	810	852	852	829	628	523	495	399	309	214	245	241	28.3%
10 形北小		447	596	947	846	628	587	499	486	534	570	520	495	52.3%
11 中央小			671	721	661	527	483	412	306	286	334	304	283	39.3%
12 三谷東小			738	802	755	507	489	467	389	320	320	303	300	37.4%
13 竹島小				575	485	376	314	306	294	331	337	329	335	58.3%
14 蒲中	1,991	1,419	1,443	1,061	981	891	651	592	530	487	520	517	492	46.4%
15 三谷中	986	700	718	726	713	705	460	460	410	383	318	294	303	41.7%
16 塩津中	342	269	332	442	495	535	376	351	331	308	317	257	268	60.6%
17 大塚中	253	192	199	218	270	268	238	184	187	194	184	147	137	62.8%
18 形原中	958	726	812	816	836	825	621	653	517	478	517	474	450	55.1%
19 西浦中	545	358	405	452	399	414	303	245	227	196	148	101	99	21.9%
20 中部中				665	699	616	465	450	380	355	338	334	370	55.6%
合計(小)	7,506	7,703	8,556	9,362	8,654	6,506	5,817	5,360	4,846	4,684	4,253	4,099	4,038	43.8%
合計(中)	5,075	3,664	3,909	4,380	4,393	4,254	3,114	2,935	2,582	2,401	2,342	2,124	2,119	48.5%
合計	12,581	11,367	12,465	13,742	13,047	10,760	8,931	8,295	7,428	7,085	6,595	6,223	6,157	45.3%

蒲郡北地区児童数推移(小学生)



蒲郡北地区生徒数推移(中学生)



- 市内全体の児童生徒数が最も多かった昭和 53 年と令和元年を比較すると、蒲郡北地区全体での児童生徒数は 50.3%にまで減少しています。(2,045 人→1,028 人)
- 特に中央小学校は減少が大きく、昭和 53 年の 39.3%になっています。

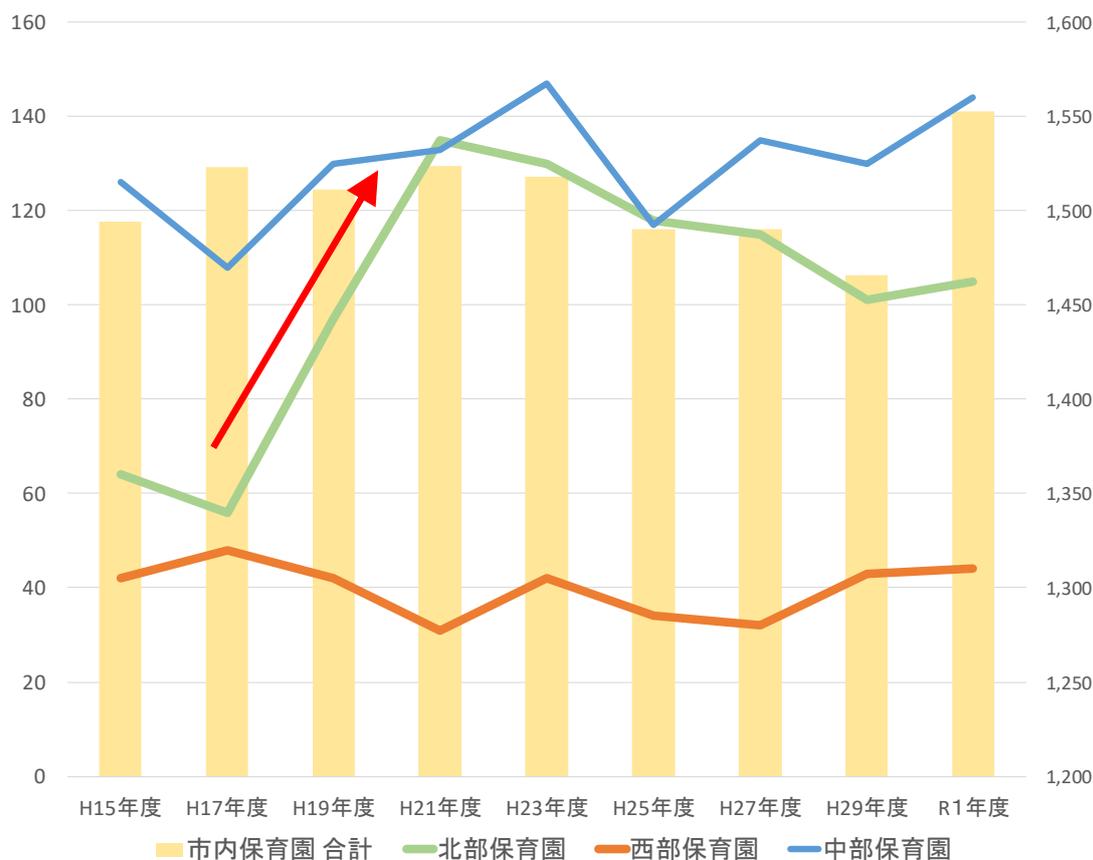
(2) 保育園の園児数の推移 (資料集 p.24)

(人)

保育園名	R1定員	H15年度	H17年度	H19年度	H21年度	H23年度	H25年度	H27年度	H29年度	R1年度
東部保育園	60	69	78	62	70	65	58	57	54	42
北部保育園	140	64	56	97	135	130	118	115	101	105
西部保育園	70	42	48	42	31	42	34	32	43	44
塩津保育園	60	54	67	65	53	44	39	30	29	38
大塚保育園	80	75	79	73	64	57	64	65	56	70
府相保育園	130	90	113	131	138	120	90	92	100	111
三谷東保育園	140	112	126	113	127	144	140	112	102	109
大塚西保育園	60	59	62	62	37	36	30	31	25	15
三谷西保育園	90	97	96	95	106	95	65	53	51	80
形原保育園	100	68	68	66	47	34	68	67	77	85
中部保育園	160	126	108	130	133	147	117	135	130	144
南部保育園	160	75	69	57	65	56	121	134	143	150
形原南保育園	100	81	97	98	105	103	73	77	83	71
西浦保育園	120	108	99	83	75	90	86	101	82	93
形原北保育園	90	89	80	76	91	102	96	84	83	74
塩津北保育園	60	58	52	41	34	36	52	40	36	10
鹿島こども園 ※	185	125	127	131	117	118	128	126	128	174
みどり保育園 ※	140	102	98	89	96	99	111	139	143	138
公立保育園計	1,620	1,494	1,523	1,511	1,428	1,301	1,251	1,225	1,195	1,241
私立保育園計	325				96	217	239	265	271	312
市内保育園合計	1,945	1,494	1,523	1,511	1,524	1,518	1,490	1,490	1,466	1,553

※ 鹿島こども園はH22年度、みどり保育園はH20年度より民営化

園児数推移



- 中部保育園は公立の保育園の中で南部保育園に次いで利用者が多くなっています。
- 北部保育園では平成17~21年度にかけて利用者数が増加しています。なお、平成19年度から低年齢児保育を開始しています。

(3) 公民館の利用状況 (資料集p.28~29)

【1】 公民館別 貸部屋利用率状況

施設名称	利用者数(人)	貸部屋利用率(%)	貸部屋 一覧	
北部公民館	29,117	15.3%	【6部屋】会議室、ホール、調理室、和室(1・2)、(館外等)	蒲郡北地区
西部公民館	10,147	19.3%	【6部屋】和室(南・中・北)、ホール、図書室、調理室、(館外等)	
蒲郡公民館	17,540	27.1%	【6部屋】和室1、和室2、研修室、調理室、多目的ホール1・2、多目的ホール3、(館外等)	蒲郡南地区
小江公民館	15,079	25.2%	【6部屋】ホール(1F・3F)、小会議室、講座室、和室、料理室、(館外等)	
府相公民館	22,685	24.9%	【7部屋】集会室(第1・2・3)、大集会室、和室(1階・3階)、調理実習室、(館外等)	
東部公民館	32,561	17.7%	【6部屋】小会議室、南研修室、和室、研修室、大会議室、料理室、(館外等)	三谷地区
三谷公民館	34,641	19.6%	【9部屋】集会室(第1~6)、大集会室、和室、調理室、(館外等)	
塩津公民館	18,727	14.6%	【6部屋】講義室、図書室、調理室、会議室、北和室、南和室、交流室、(館外等)	塩津地区
大塚公民館	28,257	22.3%	【6部屋】集会室、会議室、小会議室、控室、和室、料理室、(館外等)	大塚地区
形原公民館	26,621	27.9%	【7部屋】会議室(1~3)、大ホール、中ホール、和室(東・西)、(館外等)	形原地区
西浦公民館	32,770	20.2%	【8部屋】本館研修室(1・2)、本館講堂、本館会議室(1・2)、調理室、南館談話室、南館会議室、(館外等)	西浦地区
全館平均	24,377	21.3%		

※貸部屋利用率の算出方法: 貸部屋別、時間区分別(午前/午後/夜間)の合計貸部屋利用回数
 ÷ 貸部屋予約可能枠数合計【貸部屋数 × 時間区分(午前/午後/夜間) × 開館日】

【2】 公民館 部屋別 利用率状況

① 北部公民館

施設名称	利用者数(人)	貸部屋別利用率(%)	時間区分別 利用回数			
			午前	午後	夜間	計
会議室	2,385	19.6%	41	85	52	178
ホール	5,243	39.6%	70	125	164	359
調理室	176	2.6%	9	15		24
和室1	430	3.2%	15	8	6	29
和室2	633	11.3%	14	50	38	102
その他【全館・館外等】※	20,250					
合計	29,117	15.3%	149	283	260	692

② 西部公民館

施設名称	利用者数(人)	貸部屋別利用率(%)	時間区分別 利用回数			
			午前	午後	夜間	計
和室 南	2,629	37.5%	114	139	92	345
和室 中	490	3.1%		1	28	29
和室 北	1,103	12.7%	13	11	93	117
ホール	4,217	47.8%	93	208	139	440
図書室	494	11.0%	28	17	56	101
調理室	265	3.9%	5	5	26	36
その他【全館・館外等】※	949					
合計	10,147	19.3%	253	381	434	1,068

③ 蒲郡公民館

施設名称	利用者数(人)	貸部屋別利用率(%)	時間区分別 利用回数			
			午前	午後	夜間	計
和室1	807	10.3%	21	54	15	90
和室2	1,172	20.3%	50	124	3	177
研修室	3,613	52.3%	171	228	58	457
調理室	253	3.6%	13	18		31
多目的ホール1・2	6,926	56.5%	207	207	79	493
多目的ホール3	1,554	19.6%	60	82	29	171
その他【全館・館外等】※	3,215					
合計	17,540	27.1%	522	713	184	1,419

※館外・・・クラブ活動の屋外活動の受付業務やその他(図書館分室・ホールなど)の利用。貸部屋利用率には含まない。
 ※全館・・・イベント開催日など全館を利用すること。貸部屋利用率には反映済み。

- ・西部公民館・蒲郡公民館は全館平均と比べ公民館利用者数が少ないことが分かります。
- ・北部公民館・西部公民館は全館平均と比べ貸部屋利用率が低いことが分かります。
- ・3館とも調理室の貸部屋利用率は低い状況です。

※蒲郡公民館は中部中学校区内ではありませんが、中央小学校区の方は蒲郡公民館を利用されることから、データを掲載しています。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

【3】 公民館 世代別 利用状況

※延利用者数のうち()内は館外(スポーツ施設など)の利用者

① 北部公民館

	講座数	延利用者数	世代占有率(利用者)	実施回数	世代占有率(回数)
定期クラブ活動	31種類	12,379 (8,977)	100.0%	713	100.0%
大人対象のクラブ活動	24種類	5,883 (2,481)	47.5%	485	68.0%
子ども対象のクラブ活動	7種類	6,496 (6,496)	52.5%	228	32.0%
その他一般活動		16,738 (6,640)		303	
合計		29,117(15,617)		1,016	

※定期教室・クラブ … 少年野球、子ども柔道、ユニホッケー、少年少女卓球、グラウンドゴルフ、北部歌謡、静里俳句、園芸、写真、囲碁
北部バレー、水墨画、剣詩舞、華道、ペン習字、大正琴、レクダンス、若大グラウンドゴルフ、菊の会、若大大正琴
若大歌謡、ゲートボール、書道、古里歴史クラブ、ミニバスケット、若大、ご近所体操、オカリナ、ヨガ、月曜クラブ、NAKABI

※一般利用 … 公民館まつり、各種会議、子ども会利用など

② 西部公民館

	講座数	延利用者数	世代占有率(利用者)	実施回数	世代占有率(回数)
定期クラブ活動	29種類	6,258	100.0%	831	100.0%
大人対象のクラブ活動	28種類	4,948	79.1%	787	94.7%
子ども対象のクラブ活動	1種類	1,310	20.9%	44	5.3%
その他一般活動		3,889		143	
合計		10,147		974	

※定期教室・クラブ … 囲碁将棋、オカリナ、琴、大正琴、生花、盛花、剣舞、歌謡、茶道、詩吟、俳句会、舞踊、民謡、ゲートボール、バレーボール
トーンチャイム、フラダンス、3B体操、人形劇サークルわ・わ・わ、手づくり紙芝居、健康体操、墨絵教室、押絵クラブ
キッズダンス、グラウンドゴルフ、美姿勢と快適な体づくり教室、シニアヨガ

※一般利用 … 公民館まつり、体育祭、敬老会、子ども会、各種会議など

③ 蒲郡公民館

	講座数	延利用者数	世代占有率(利用者)	実施回数	世代占有率(回数)
定期クラブ活動	27種類	9,460	100.0%	995	100.0%
大人対象のクラブ活動	27種類	9,460	100.0%	995	100.0%
子ども対象のクラブ活動	なし	0	0.0%	0	0.0%
その他一般活動		8,080(598)		447	
合計		17,540(598)		1,442	

※定期教室・クラブ … 囲碁教室、蒲郡民謡教室、草の実俳句会、民謡教室、茶道教室、蒲郡女声サークル、老人カラオケクラブ、洋裁・手芸教室
写真教室、歴史地名研究会、ちぎり絵恭和会、社交ダンス、卓球教室、源氏物語を読む会、パソコン習得、カラオケ同好会
ちりめん細工教室、手あみ教室、コカリナアンサンブル、短歌教室、実用書道、元気モリモリ蒲郡、日本古代史研究会
菊の会、すこやかダンスクラブ

※一般利用 … 公民館まつり、敬老会、子ども会、各種会議など

- ・西部公民館・蒲郡公民館は大人対象のクラブ活動での利用が多くを占めています。子どもの利用は少ない状況です。
- ・北部公民館は子ども対象のクラブ活動も多く行われています。

(4) ちゅうぶ児童館の利用状況 (資料集 p.26)

開館日：毎週月曜日から土曜日
(日曜日・祝日は休館)

対象：0～18歳の子ども

※ 小学1年生からは子どものみでの利用が可能

平成30年度年間利用者数

	開館日数	乳幼児		小学生		中高生		その他		団体利用者	児童クラブ	合計	
		利用数	1日平均	利用数	1日平均	利用数	1日平均	利用数	1日平均			利用数	1日平均
がまごおり	294	9,782	33.3	2,871	9.8	435	1.5	8,004	27.2	239	8,141	29,472	100.2
かたはら	293	7,028	24.0	2,366	8.1	106	0.4	6,347	21.7	129	4,537	20,513	70.0
みや	292	8,041	27.5	4,135	14.2	396	1.4	6,244	21.4	18	3,462	22,296	76.4
おおつか	293	4,028	13.7	2,118	7.2	115	0.4	3,330	11.4	437	7,057	17,085	58.3
にしうら	292	6,630	22.7	5,015	17.2	176	0.6	5,229	17.9	95	4,649	21,794	74.6
しおつ	293	7,683	26.2	3,578	12.2	891	3.0	6,054	20.7	405	6,919	25,530	87.1
ちゅうぶ	292	9,534	32.7	5,598	19.2	825	2.8	8,208	28.1	72	3,040	27,277	93.4

乳幼児向けイベント

- 親子で遊ぼう
体操、リズム遊びなど。
- 絵本ふれあいあそび
絵本、紙芝居等よみきかせ
わらべうたなどのふれあい遊び
- 赤ちゃんサロン (会員制)
赤ちゃんとお母さんの交流の場。
子育ての情報交換や交流など
- ファミリーで遊ぼう など



小学生向けイベント

- みんなであそぼう
- 自由工作
- 避難訓練、防犯教室 など

・平成30年度のちゅうぶ児童館の1日当たり利用者数は93.4人であり、市内7館のうちがまごおり児童館に次いで利用者が多いことがわかります。

5

各施設の概要（前回資料と同じ内容）

施設名称	概況（特徴・課題等）
<p>蒲郡北部 小学校</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最も古い校舎は昭和 27 年に建設されている。 ・ 児童数 304 人（R1.5.1 現在） ・ 普通学級数 12（全学年 2 クラス）、特別支援学級数 4。 ・ 校内に放課後児童クラブが設置されており、1～2 年生（43 人）が利用している。3 年生以上（18 人）についてはちゅうぶ児童館にて実施。（H31.4.1 現在） ・ 指定避難所・指定緊急避難場所に指定されている。 ・ 耐震性能あり（耐震補強実施済み）。
<p>蒲郡西部 小学校</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最も古い校舎は昭和 27 年に建設されている。 ・ 児童数 71 人（R1.5.1 現在） ・ 普通学級数 6（全学年 1 クラス）、特別支援学級数 2。 ・ 児童クラブについては全学年ちゅうぶ児童館にて実施。 ・ 指定避難所・指定緊急避難場所に指定されている。 ・ 耐震性能あり（耐震補強実施済み）。

施設名称	概況（特徴・課題等）
中央小学校	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最も古い校舎は昭和 41 年に建設されている。 ・ 児童数の増加に伴い、昭和 44 年開校。 ・ 児童数 283 人（R1.5.1 現在） ・ 普通学級数 12（全学年 2 クラス）、特別支援学級数 4。 ・ 校内に放課後児童クラブが設置されており、1～6年生（50 人）が利用している。（H31.4.1 現在） ・ 指定避難所・指定緊急避難場所に指定されている。 ・ 耐震性能あり（耐震補強実施済み）。
中部中学校	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最も古い校舎は昭和 53 年に建設されている。 ・ 生徒数の増加に伴い、昭和 53 年開校。 ・ 生徒数 370 人（R1.5.1 現在） ・ 普通学級数 12（全学年 4 クラス）、特別支援学級数 2。 ・ 指定避難所・指定緊急避難場所に指定されている。 ・ 耐震性能あり（耐震補強実施済み）。

施設名称	概況（特徴・課題等）
北部保育園	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 55 年に建設されている。 ・ 老朽化度 3.0 となっており、老朽化が進行していると考えられる。 ・ 園児数 105 人（定員 140 人）（H31.4.1 現在） ・ 低年齢児保育は生後 6 ヶ月～、延長保育は午後 7 時まで実施。 ・ 耐震性能あり（耐震補強実施済み）。
西部保育園	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 52 年に建設されている。 ・ 園児数 44 人（定員 70 人）（H31.4.1 現在） ・ 低年齢児保育は生後 6 ヶ月～、延長保育は午後 7 時まで実施。 ・ 指定避難所に指定されている。 ・ 耐震性能あり（耐震補強実施済み）。
中部保育園	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 51 年に建設されている。 ・ 園児数 144 人（定員 160 人）（H31.4.1 現在） ・ 低年齢児保育は生後 6 ヶ月～、延長保育は午後 7 時まで実施。 ・ 日曜・祝日は、休日保育を行っており、市内保育園・こども園利用者のうち希望者が事前申込の上利用できる。 ・ 指定避難所に指定されている。 ・ 耐震性能あり（耐震補強実施済み）。

施設名称	概況（特徴・課題等）
<p>ちゅうぶ 児童館</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 16 年に建設されている。 ・ 0～18 歳の子どもを対象とした施設。 ・ 児童クラブが設置されており、蒲郡北部小学校（3年生以上・18 人）、蒲郡西部小学校（1～5年生・20 人）の児童が利用している。（H31.4.1 現在） ・ 耐震性能あり（新耐震基準による建築物）。
<p>北部公民館</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 53 年に建設されている ・ 老朽化度 3.0 となっており、老朽化が進行していると考えられる。 ・ 地域避難場所に指定されている。 ・ 耐震性能あり。
<p>西部公民館</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 51 年に建設されている。 ・ 地域避難場所に指定されている。 ・ 耐震性能あり。

【地区利用型施設一覧】（前回資料と同じ内容）

施設用途	施設名称	延床面積 (㎡)	建築年	老朽化度	危険区域該当		避難所指定			防災設備の有無				市の支出				市の収入 (千円)	市の負担額 (千円)	面積あたり市負担額 (円/㎡)	利用者数			平均園児数 (人)	平均児童・生徒数 (人)	貸部屋等利用率 (%)	ハード評価 (偏差値)	ソフト評価 (偏差値)
					津波浸水	土砂災害	指定避難所	地域避難場所	指定緊急避難場所	防災備蓄用品	非常用発電装置	非常用通信装置	災害用電話配線	施設に係るコスト (千円)	事業運営に係るコスト (千円)	人に係るコスト (千円)	指定管理料 (千円)				3年平均 (人)	1日あたり平均 (人/日)	面積あたり1日あたり平均 (人/㎡・日)					
小学校	蒲郡北部小学校	4,747	S27	2.7			○		○	○	○	○	○	21,184	8,042	6,133	0	93	35,266	7,429	—	—	—	—	303	—	44.3	47.9
	蒲郡西部小学校	3,642	S27	2.2			○		○	○	○	○	○	14,485	6,878	2,700	0	93	23,970	6,582	—	—	—	—	81	—	47.3	51.6
	中央小学校	6,216	S41	2.9			○		○	○	○	○	○	35,475	8,577	3,600	0	503	47,149	7,585	—	—	—	—	309	—	43.5	47.5
中学校	中部中学校	7,585	S53	2.3			○		○	○	○	○	○	40,768	8,111	5,767	0	93	54,553	7,192	—	—	—	—	335	—	50.5	46.9
保育園	北部保育園	1,140	S55	3.0			○			○		○	○	5,757	28,361	83,733	0	27,194	90,657	79,533	—	—	—	126	—	—	46.5	46.7
	西部保育園	660	S52	2.2			○			○		○	○	2,972	9,416	50,533	0	8,939	53,983	81,840	—	—	—	43	—	—	50.7	40.9
	中部保育園	1,308	S51	2.6			○			○		○	○	6,094	33,612	78,867	0	34,987	83,585	63,909	—	—	—	144	—	—	48.1	50.8
児童館	ちゅうぶ児童館	569	H16	2.0										1,795	2,436	10,633	0	323	14,541	25,567	35,599	121.1	0.213	—	—	—	62.7	60.7
公民館	北部公民館	551	S53	3.0				○		○		○		291	0	0	5,472	0	5,763	10,466	34,282	112.6	0.204	—	—	15.5	46.5	54.7
	西部公民館	418	S51	2.6				○		○		○		1,184	0	0	4,901	0	6,085	14,570	8,208	27.2	0.065	—	—	12.8	48.6	36.0

出典：平成 26 年度蒲郡市公共施設白書

- ※ 複数の建物で構成されている施設の築年数は、最も建築年の古い建物をもとに掲載しています。
- ※ 「危険区域該当」における「津波浸水」は平成 26 年 5 月 30 日発表の愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査に基づく津波浸水区域を指します。
- ※ 「土砂災害」は平成 30 年 3 月 9 日に愛知県が指定した土砂災害特別警戒区域を指します。
- ※ 「避難所指定」及び「防災設備の有無」は令和元年 7 月 1 日時点の状況を指します。
- ※ 「非常用発電装置」は自家発電装置ならびに小型発電機を指します。
- ※ 「非常用電話配線」は災害時優先電話を指します。
- ※ 市の支出・収入・負担額及び利用状況の値は 3 力年度（平成 23～25 年度）の平均値を掲載しています。

- ※ 避難所の種類について
 - 指定避難所 …被災者が避難生活をするための場所。主に小中学校の体育館がこれにあたり、地震などの大規模災害時に開設します。
 - 地域避難場所 …台風などの風水害の際、少人数の方が一時的に避難するために開設する場所。公民館や児童館などが指定されています。
 - 指定緊急避難場所…地震など災害の危険から命を守るため、一時的に避難する場所。学校の校庭や公園などが指定されています。

課題解決に向けた視点の整理

- 第1回ワークショップでいただいたご意見が、どのような視点で発言いただいているのか、事務局で整理しました。
- まちづくりや公共施設に関していただいたご意見は、8の視点に分類することができますと考えられます。

視 点	ご意見要約
① 地域での活動・交流のしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の複合化で世代間の交流、地域の活性化につなげられないか。 ● 人口が少ないと住民負担も大きい。 ● 学区と自治会の不整合がある。
② 学校教育環境のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒数などの観点から再編は妥当。 ● 小規模学級のメリット・デメリットを考慮する必要がある。
③ 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て関連施設は近くにあったほうが便利で安心ある。 ● 保育園を統合して効率化し、延長保育などサービスを向上してほしい。 ● 児童クラブは学校内でできないか。
④ 高齢者の居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化が進んでおり、日常的に交流できるようにしたい。
⑤ 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災や交通安全を考えた施設配置を考えるべき。
⑥ 利便性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティバスの整備が必要。 ● 子どもや高齢者が使う施設は徒歩圏内に施設があると良い。
⑦ 将来負担の縮減	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少に伴い施設を減らす必要がある。 ● 効率化して新たなサービスを充実させてほしい。
⑧ 運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の有効活用を考えるべき。 ● 利用しやすい工夫が必要である。
⑨ . . .	<ul style="list-style-type: none"> ●

※皆様のご意見をどのように本資料の形に整理したかについてはp.44～46「第1回ワークショップでいただいたご意見の整理」をご覧ください。

第1回ワークショップでいただいたご意見の整理

- 第1回ワークショップでは、様々な観点からワークショップの進め方や蒲郡北地区の課題等についてご意見をいただきました。
- いただいたご意見がどのような視点に基づいているのかを事務局において整理し、下表のとおり分類しました。
- 「回答を用意しています」としている項目については、p.18～30の「ご質問等への回答」で、事実関係や市の考えなどの回答を用意しています。
- 「進め方についてのご意見」としている項目は、今後のワークショップ等の運営にあたり特に留意すべき事項として整理します。
- まちづくりや公共施設に関するご意見については、次の①～⑧に分類し、この分類に基づき、p.43「課題解決に向けた視点の整理」を作成しました。

【第1回ワークショップでのご意見の分類】

- ①地域での活動・交流のしやすさ ②学校教育環境のあり方 ③子育てしやすい環境づくり ④高齢者の居場所づくり
- ⑤安全・安心 ⑥利便性の確保 ⑦将来負担の縮減 ⑧運営の改善

※ここでご意見をいただいた内容について、公共施設の将来を考えていくことを通じて解決していきたいと市は考えています。

(1) 進め方、公共施設マネジメントの取組みについてのご意見

区 分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分 類
蒲郡市の現状と課題	将来の維持更新費が足りなくなるという根拠について、疑問が残る。 施設を縮減するよりも今ある施設を長く利用したほうが、コストを抑えられると思う。	回答を用意しています
	人口減少が進む見通しに合わせて公共施設も縮小を考えているが、企業誘致や宅地造成などの人口を増やすための施策も考えるべきだ。 余裕を持たせた計画も必要であるが、運営面や維持管理費用など総合的に考えて検討すべきである。	公共施設マネジメントの方針に関するご意見
	人口減少に対応して将来の公共施設の縮減や合併はある程度仕方がないと思う。今ならまだ財政的な余裕もあり、検討を始めるには好機だと考える。	⑦将来負担の縮減
地区個別計画策定に向けた検討の進め方	公共施設の建て替え時期の目安を示してほしい。	回答を用意しています
	地区内にある図書館や市民体育センター等の全市利用型施設についても、一緒に検討するべきではないか。	回答を用意しています
	小・中学校については中学校区の枠にとらわれずに、全市的な方針・視点で配置案を考えた方がよいのではないか。	進め方についてのご意見
	中央小学区は蒲郡公民館を利用しているため、蒲郡南地区を交えて公民館の再配置について話し合いをする必要がある。	回答を用意しています
	3つの小学校区毎に地域の実情が違うため、各学区の問題や課題等に対する認識に温度差が出ないように、お互いの実情を知ることが必要である。	進め方についてのご意見
ワークショップやオープンハウスだけでなく、自治会・PTA等の地域団体や興味を持っていない人の意見をどう吸い上げ、計画に活かすかの工夫が必要である。	回答を用意しています	
ワークショップの進め方	グループ討議のファシリテーターは外部に依頼するのではなく、市の職員が担当すれば運営コストを削減できるのではないか。	回答を用意しています
	グループワークで個々が意見を出す時に、本人が要点をまとめて付箋紙に書くことは難しい。グループファシリテーターが書き起こす方がよいのではないか。	進め方についてのご意見

(2) 蒲郡北地区の公共施設の課題に関するご意見

区分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分類
地区のまちづくりの方向性	高齢化が進んでいる地区もある。日常的に交流ができるよう、公共施設やコミュニティバスの整備、ソフト面での対応などで、高齢者が住みよいまちにしたい。	④高齢者の居場所づくり ⑥利便性の確保 回答を用意しています
	中央小学校と蒲郡南小学校、中央小学校と西部小学校では学区と自治会との不整合が起きているため、不整合は解消される方が良い。 西部小学区は市街化調整区域が多く新しい家が建ちにくい。将来的に、学区内で開発できるようにならないか。	①地域での活動・交流のしやすさ 回答を用意しています
	現在の学校や保育園の維持にこだわる必要はない。公共施設の再配置と共に行政区も適宜変化していく必要がある。	①地域での活動・交流のしやすさ ⑥利便性の確保
公共施設の現状や今後について気になること (公共施設全般)	施設の利用現状や将来の人口動向を把握した上で、公共施設の再配置の必要性について考える必要がある。	回答を用意しています
	高齢者や子どもは徒歩での移動が多いため、こうした人が利用する施設は徒歩圏内に配置を検討すべきである。	③子育てしやすい環境づくり ④高齢者の居場所づくり ⑥利便性の確保
	多機能化、集約化することによって、子育て環境の向上や、災害等の非常時への対応もとりやすくなる。 部活動がなくなるので、子どもと市民団体が共に活動する場所を検討できると良い。	①地域での活動・交流のしやすさ ③子育てしやすい環境づくり ⑤安全・安心
	避難施設など防災面も考慮した上で、公共施設の配置を計画すべきである。 中央小学校は標高が低く、避難場所としては疑問がある。 津波や洪水の危険性について、年配の人は理解をしているが後世に伝えられていない。	⑤安全・安心 回答を用意しています
	施設が老朽化しており、対応が必要である。	⑤安全・安心
	公共施設が有効利用されていない。民間に有料で貸し出したらどうか。 今ある施設を有効に活用し、余った施設は廃止すべきである。	⑦将来負担の縮減 ⑧運営の改善 回答を用意しています ⑦将来負担の縮減
公共施設の現状や今後について気になること (小学校・中学校)	空き教室など学校施設の利用実態を正しく把握したうえで、施設の有効利用や廃止の可能性を検討すべきである。 学校は地域活動などでもっとオープンにされるべきだと思う。	⑧運営の改善 回答を用意しています
	通学路の安全を考慮した計画にすべきである。 学校の統合は通学距離が長くなり、安全面において心配がある。	⑤安全・安心 回答を用意しています
	児童数や築年数を考慮すると、小学校を3校から2校へ再編するのが妥当だ。学校跡地の有効活用もできる。	②学校教育環境のあり方 ⑦将来負担の縮減
	西部小学区は人口が少なく、住民の負担も大きい。再編すれば負担の平準化や効率化を図ることができる。	①地域での活動・交流のしやすさ ⑦将来負担の縮減
	少人数学級では人間関係に苦労するといったデメリットと、自己表現力が養われるといったメリットの両方を聞くので、これらを考慮する必要がある。	②学校教育環境のあり方
	小学生の通学手段を確保したうえで、小中一貫校を導入して中部中学校と小学校3校を一緒にする案も考えてはどうか。 学校を減らしてでも、児童の多国籍化への対応や、障がいを持った子への特別支援など、子どもたちに手厚い支援をしたい。	②学校教育環境のあり方 回答を用意しています ⑦将来負担の縮減
1クラス当たりの適正な園児数は15～20人ではないか。	③子育てしやすい環境づくり 回答を用意しています	

区分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分類
公共施設の現状や今後について気になること (保育園)	保育園は必ずしも最寄りの園ではなく、車で送迎している実態がある。統合によって効率化し、延長保育や未満児保育などのサービスを向上してほしい。	③子育てしやすい環境づくり ⑦将来負担の縮減
	西部保育園は西部小学校と一体化したほうが便利である。	③子育てしやすい環境づくり ⑥利便性の確保
公共施設の現状や今後について気になること (公民館)	公民館は高齢者の利用が多いが、若い人が使いやすい環境づくりや利用のPRを行い、利用促進を図りたい。多機能化や複合化によって、利便性が向上し、多世代で交流できる場となれば、地域の活性化にもつながる。	①地域での活動・交流のしやすさ ⑧運営の改善
	昔は子どもが公民館で遊んでいたが、最近は見かけない。公民館の必要性を考えるうえで、子どもの遊び場の現状も知りたい。	⑧運営の改善 回答を用意しています
	中央小学区は隣の学区にある蒲郡公民館を利用している。体育センターに公民館を併設してほしい。	⑥利便性の確保
公共施設の現状や今後について気になること (児童館・児童クラブ)	西部小学校・北部小学校の児童クラブはちゅうぶ児童館で実施されているが、学校内でできないのか。児童館への移動は大変で、交通事故も心配である。	③子育てしやすい環境づくり ⑤安全・安心 回答を用意しています

(3) その他のご意見

区分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分類
その他	自治会の役員を引き受けたがらない人が多い。自治会活動への参加を促していく必要がある。	その他のご意見
	バイパスが開通したことで地域が分断され、自治会運営に混乱が生じている。	その他のご意見
	地元が管理する地域の集会場を多機能化して活用できるようにするべきである。	その他のご意見

本日の検討内容

- ① 第1回ワークショップで出された意見を反映し、皆さんが大切と思っている8の視点をまとめました。皆様のご意見は反映されていますか。追加すべき視点はありますか。

(WSを通じて得られた課題の視点)

- | | |
|-----------------|-------------|
| ①地域での活動・交流のしやすさ | ②学校教育環境のあり方 |
| ③子育てしやすい環境づくり | ④高齢者の居場所づくり |
| ⑤安全・安心 | ⑥利便性の確保 |
| ⑦将来負担の縮減 | ⑧運営の改善 |

- ② 各々の視点について、課題を解決するためにどのようなことに具体的に取り組んでいくとよいでしょうか。

次回ワークショップのご案内

「第3回蒲郡北地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようお願いいたします。

1 日時

令和元年9月29日（日）

午後1時30分～午後4時30分（開場：午後1時15分）

2 会場

中部中学校 本館 3階図書室

3 お願い

- ・ 次回ワークショップの資料を郵送で事前に配布いたしますので当日ご持参ください。
- ・ 欠席される場合や託児が必要な場合は、9月20日（金）までに事務局までご連絡ください。

【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部公共施設マネジメント課

担 当：上田・大森・星野

電 話：0533-66-1214

ファクス：0533-66-1183

E-mail：k-mane@city.gamagori.lg.jp